

SBVS-1ちかいとおきて(BVSのやくそくときまり)と年代の特性

(60分)

目標

- 1.ビーバースカウトの「やくそく」とビーバー隊の「きまり」と「ちかい」と「おきて」の関連を理解する。
- 2.ビーバースカウトが日常生活の中で、ビーバースカウト隊の「きまり」が実行できるように支援できる。
- 3.ビーバースカウト年代の特性について理解する。

指導上のねらい

- 1.「ちかい」・「おきて」とビーバースカウトの「やくそく」・ビーバー隊の「きまり」(以下「やくそく」と「きまり」略)の関連を理解させる。
- 2.日常生活の中で、スカウトが実践できるように指導(支援)することは、隊長としての任務であることを理解させる。
- 3.日常生活の中で、スカウトが実践できるように指導は、日常生活のしつけに繋がることを理解させる。とって重要であることを理解させる。
- 4.支援する方法や機会は多様であり、実行できる機会を増やすことがビーバースカウトの成長にとって重要であることを理解させる。
- 5.ビーバースカウト年代の一般的な特性について、子どもの日常的な姿行動に繋げて理解させる。
- 6.ビーバースカウト活動がビーバースカウト年代の特性と大きな関わりがあることを理解させる。
- 7.「セーフ・フロム・ハーム」について正しく理解させると共に、子どもの人権に配慮した言動ができることが重要であることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・日本連盟規定集
- ・日本連盟発行書籍「おきて指導の手引き」
- ・ビーバースカウト隊リダーハンドブック(2017改訂版)
- ・「セーフ・フロム・ハーム」ガイドブック
- ・ワークシート「きまり」と「おきて」の関連図

セッション運営要項作成にあたって

1.セッションの概要

※このセッションはスカウトコース§5「スカウト運動」を踏まえて展開する。

(1)日常生活での「おきて」の実践が「ちかい」の実行につながり、原理に基づくされることを振り返り、ビーバースカウトの「やくそく」とビーバー隊の「きまり」についても同じであることをスカウト運動の目的が達成強調する。

(2)ビーバースカウトの「やくそく」とビーバー隊の「きまり」について

①「やくそく」と「ちかい」の関連について説明する。

「きまり」についても同じであることを強調する。

①「やくそく」と「ちかい」の関連について説明する。

「やくそく」は「ちかい」をスカウトの発達段階や特性を考慮して表現したものであり、ビーバー隊の指導者が「ちかい」を意識してビーバースカウトを導くことが重要となる。

②「きまり」と「おきて」の関連について説明する。

「きまり」は「おきて」をビーバースカウト年代特性(自己中心的な傾向が強く、そこから脱却する段階である)を踏まえていることをおさえる。

(3)「きまり」の指導

①作業(ワークシート使用)

「きまり」が実行できるように指導する方法、機会について、個人作業、全体交流を通じて考えさせる。

(4)ビーバースカウト年代の特性について

①個人作業、グループ作業、指導者による説明、等により共有する。

・身体的な面、精神的・心理的な面、社会的な面について考える。

(5)「セーフ・フロム・ハーム」について

①成人指導者として、配慮すべき事について説明する。

2.訓練目標を達成するための留意点

(1)隊長自身の日常生活における「ちかい」と「おきて」の実践が重要であり、また「きまり」への取り組みも重要であるから、家庭や地域との連携を大切に

必要性についても知らせる。

(2)「きまり」を守ったときにタイミング良く褒めることで、次の行動への動機付けを行うことが出来ることを伝える。

(3)幼いからできないのではなく、それぞれの年代にふさわしい貢献があえる。

できることから毎日少しずつ行えるように支援することから始まることを強調する。

(4)ビーバースカウト活動は、すべてビーバースカウト年代の子どもたちの特性

(発達段階や一般的特性)を理解することから始まることを強調する。

(5)ビーバースカウト一人ひとりをしっかり把握し、個におうじた支援(一人ひとりを大切に思う気持ちとともに)が必要であることを伝える。

3.その他確認事項

SBVS-1ちかいとおきて(BVSのやくそくときまり)と年代の特性

10時00分～11時00分(60分)

担当 木名瀬 智子

準備・依頼事項・参考

目標

- 1.ビーバースカウトの「やくそく」とビーバー隊の「きまり」と「ちかい」と「おきて」の関連を理解する。
- 2.ビーバースカウトが日常生活の中で、ビーバースカウト隊の「きまり」が実行できるように支援できる。
- 3.ビーバースカウト年代の特性について理解する。

指導上のねらい

- 1.「ちかい」「おきて」とビーバースカウトの「やくそく」・ビーバー隊の「きまり」(以下「やくそく」と「きまり」略)の関連を理解させる。
- 2.日常生活の中で、スカウトが実践できるように指導(支援)することは、隊長としての任務であることを理解させる。
- 3.日常生活の中で、スカウトが実践できるように指導は、日常生活のしつけに繋がると理解させる。とって重要であることを理解させる。
- 4.支援する方法や機会は多様であり、実行できる機会を増やすことがビーバースカウトの成長にとって重要であることを理解させる。
- 5.ビーバースカウト年代の一般的な特性について、子どもの日常的な姿行動に繋げて理解させる。
- 6.ビーバースカウト活動がビーバースカウト年代の特性と大きな関わりがあることを理解させる。
- 7.「セーフ・フロム・ハーム」について正しく理解させると共に、子どもの人権に配慮した言動ができることが重要であることを理解させる。

セッション展開にあたっての留意事項

- (1)隊長自身の日常の生活における「ちかい」と「おきて」の実践が重要であり、また「きまり」への取り組みも重要であるから、家庭や地域との連携を大切にすることを必要性についても知らせる。
- (2)「きまり」を守ったときにタイミング良く褒めることで、次の行動への動機付けを行うことが出来ることを伝える。
- (3)幼いからできないのではなく、それぞれの年代にふさわしい貢献があえる。できることから毎日少しずつ行えるように支援することから始まることを強調する。
- (4)ビーバースカウト活動は、すべてビーバースカウト年代の子どもたちの特性(発達段階や一般的特性)を理解することから始まることを強調する。
- (5)ビーバースカウト一人ひとりをしっかり把握し、個に応じた支援(一人ひとりを大切に思う気持ちとともに)が必要であることを伝える。

- ・隊長ハンドブック
- ・歌集
- ・日本連盟規定集
- ・おきての手引き
- ・セーフ・フロムの資料
- ・自隊のプログラム

時間	内容
導入 (10分)	私の自己紹介
10:00	《個人作業》 あなたの隊は、 スカウトの年齢男女人数 指導者は、(隊長・副長・あとは・・・) 男女人数 グループ内での自己紹介
10:10	《個人作業》 在籍のスカウトはどんなスカウト？(あなたから見て) 誰か1人○○さんを思い出しながら記入。 その子は、どんな性格社会とはどんな結びつきなど。

展開

- (10分) (1) ビーバースカウト年代の特性について
- 10:20 ・身体的な面, 精神的・心理的な面, 社会的な面について考える。
・一般的な特徴
ビーバースカウトの対象は・・・
小1・2 (団によっては, 就学直前1月～3月)
児童前期, 幼児期の名残の自己中心性を解消しながら,
客観的な世界へ適応する準備を整える時期。
- 大きい筋肉を自由に運動・・・かけっこ, 縄跳び, 鉄棒などの遊びも思い通り 遊びを通して細かい手先の仕事も上手に。
- 一人ひとりがいろいろと工夫したり, 頑張り成し遂げた時に『やればできるんだ』ということが体験による理解は, 動機づけの源となる。
自発性の基本として重要。
- ・勝敗, どんなやり方でも勝たせてもらえれば, 自己中心的な勝敗に非常にこだわる。
 - ・自分のことは, 動機論。
- わざとじゃないよ。他人だと, 大変な非難。
- ・他人の身になって, 考えるのは難しい。
 - ・暗示にかかりやすい。おだてにのりやすい。
 - ・整理整頓が苦手。
 - ・戸外で遊びに熱中。
 - ・暑さや寒さは気にしない。
 - ・願望と現実が入交作り話をする。
 - ・いつも, もぞもぞ動く体。
 - ・おしゃべり, 正しい姿勢や態度を保ち続けることが難しい。
- ・活動時間は, 1. 5時間～2時間程度。
 - ・スカウトの能力を伸ばす3か条
- | |
|---------------|
| 1. 豊富な経験をさせる。 |
| 2. 褒める |
| 3. 無理強いをしない |
- ・一人ひとりをよく観察し, タイミングよく褒める。
 - ・視野の高さと視野の広さは生活範囲程度の広さ, 小学校と自宅の範囲の認識。
 - ・自分の隊にあった工夫を。

準備・依頼事項・参考

コピー用紙配布

氏名所属団名
スカウトの年齢(学年)男女人数
指導者は,(隊長・副長・あとは・・・) 男女人数
精神的・社会的・心理的

自隊のプログラムでは、やくそくときまり

H B P 8 ~ 1 0

H B P 1 1

20分 (2) ビーバースカウトの「やくそく」と
10:30 ビーバー隊の「きまり」

スカウト運動の目的、「より良き社会人」に育てる。
より良き社会人とは、これからの社会を担うために
市民としての義務と責任を果たせる人。

スカウト運動の「原理」
「3つのつとめ」として示されそれを具体化したものが、
「ちかい」です。
自らの意志で、「ちかい」をたて、スカウト運動の参加。

「ちかい」を心のよりどころにし、日々の生き方
を具体的な行動規範(日常生活のものさし)として、
「おきて」を実行することを心がけます。

「3つのつとめ」・・・
神へのつとめ、他へのつとめ、自分へのつとめ

ビーバースカウトの「やくそく」
ぼくは、みんなとなかよくします。 「自分へのつとめ」
ビーバー隊のきまりをまもります。

・一緒に遊びながら、誰とでも仲良くやっていくことの
楽しさを体験させたい。

ビーバー隊の「きまり」

1. ビーバースカウトは、元気に遊びます。
2. ビーバースカウトは、物を大切にします。
3. ビーバースカウトは、良い事をします。

・仲間、コミュニケーション、ルール、思いやり、健康、
安全、指示を受け入れる、表現力、など。
・価値観、自律、おもいやり、愛と感謝
・考える力、善悪の判断、社会性、安全、行動の承認、

・隊集会や日常生活の中で体験体得させて。

・主体性を期待しつつ、スカウト一人だけで実行する
のではなく指導者の支援のもとで、仲間と共に実行
しようという考え方を込めています。

・日常生活の中で、スカウトが実践できるように
指導(支援)することは、隊長としての任務である。
・日常生活の中で、スカウトが実践できるように指導は、
日常生活のしつけに繋がる。

・「セーフ・フロム・ハーム」について正しく理解させる
と共に、子どもの人権に配慮した言動ができること。

《個人作業》

・自隊のプログラムを見て、やくそくときまり入って
いますか? コピー用紙に記入。

まとめ 10:50 ・親とは違う大人、学校の先生とも違う大人との関わり
を通して、学びとるもの。

・なんだかやってみたら楽しかった。できちゃった。
すごいねと褒められちゃった。

「隊長が、言ったから。隊長がこうしていたから。」など
スカウト達は常に見ている。そして真似をする。

11:00 だから、大人である指導者のありようは大切。

HBP24

スカウトの「ちかい」

私は名誉にかけて次の三条の
実行をちかいます。

- 一. 神(仏)と国に誠を尽くし
おきてを守ります。
- 一. いつも他の人々をたすけます。
- 一. 体を強くし心をすこやかに
徳を養います。

カブ隊の「さだめ」

ぼくは、まじめにしっかりやります。
カブ隊のさだめをまもります。

スカウトの「おきて」

1. スカウトは誠実である。
2. スカウトは友情にあつい。
3. スカウトは礼儀正しい。
4. スカウトは親切である。
5. スカウトは快活である。
6. スカウトは質素である。
7. スカウトは勇敢である。
8. スカウトは感謝の心をもつ。

カブ隊の「さだめ」

1. カブスカウトは
すなおであります。
2. カブスカウトは
自分のことを自分でします。
3. カブスカウトは
たがいに助けあいます。
4. カブスカウトは
おさないものをいたわります。
5. カブスカウトは
すすんでよいことをします。

HBP159